職業に関する教科における学習評価の実践研究

― 指導と評価の一体化に向けて ―

屋　宜　　督*　　新　垣　安　之**　　兼　次　あかね***
上　唐　由紀子***　　塩　浜　　浄***　　佐 久 本　　厚*
徳　永　公　男****　　安座間　　健****　　長　濱　隆　史*****
具志堅　良　彦******　　小　原　満　春*******　　安座名　清　子*******

キーワード　産業教育　専門教科　学習評価　実践研究
学習指導要領　学習指導案　観点別評価　３観点
つなぐ　教科・科目の目標・内容　主体的・対話的で深い学び

Ⅰ　はじめに

高等学校学習指導要領（平成 30 年３月告示）第１章総則　第１款高等学校教育の基本と教育課程の役割において「３（略）(1) 知識及び技能が習得されるようにすること。(2) 思考力，判断力，表現力等を育成すること。(3) 学びに向かう力，人間性等を涵養すること。」とあり、生きる力を育むことを目指す、新しい時代に必要となる資質･能力の育成が三つの柱として示された。第３款教育課程の実施と学習評価　１主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善「(1) 第１款の３の(1)から(3)までに示すことが偏りなく実現されるよう，単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら，生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。(略)」、２学習評価の充実「(1) 生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し，学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。また，各教科・科目等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から，単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して，学習の過程や成果を評価し，指導の改善や学習意欲の向上を図り，資質・能力の育成に生かすようにすること。」と示され、指導と評価の一体化の必要性が明確化された。

産業教育班では、令和４年度からの高等学校学習指導要領の実施に向け、令和２年度班内共同研究において研究テーマ「職業に関する教科における学習評価の研究」として、指導と評価の一体化に向けた「学習評価」に焦点を絞り、学習評価に関する課題とその改善に向けた調査研究を行った。研究の成果として、学習指導要領における学習評価が目指している「学習評価の在り方」「評価規準の設定」「観点別学習状況の評価」を明確にすることができ、それらを反映させた「学習評価に関する資料」を職業に関する教科の現状に沿って作成することができた。

観点別学習状況の評価は、目の前の生徒の学習活動の「表れ」を教師が「見取る」ことが大切である。教師が生徒を見取る際の規準（評価）を明確に持つことで、見取った「表れ」を「評価」につなぎ、更に「評価」を指導改善につなげていくことで、指導と評価が一体となる授業が実現する。また、実態調査「専門高校の専門教科を受け持つ教員を対象とした実態調査（令和２年度調査研究　高等学校における学習評価の実態状況と課題)」による「観点別評価に影響を及ぼす方法」からは、３観点の「思考力・判断力・表現力等」の評価については、評価への明確な基準を持っていないことが示唆されていることから、観点別学習の取組みについて、特に、「思考・判断・表現」を中心とした支援が必要である。

本研究は、指導と評価の一体化に向けて「学習評価」に焦点を絞った取組として、１年目「学習評価の在り方と実態の把握」の成果を踏まえた、２年目の研究「観点別学習状況の評価の充実」に、学校現場の教師とともに職業に関する教科における学習評価の充実を目指す実践研究である。

〔研究目標〕

学習評価についての課題を理解するため、１年目は学校現場の課題を適切に把握し、課題解決策を研究するための実態調査や理論研究等について精査し、２年目（今年度）は教師による学習評価の取組を更に推進し、観点別学習状況の評価の充実を目指す。

１　学習評価の在り方と実態の把握（１年目）

(1) 理論研究により、学習評価に関する経緯や内容を整理し、授業に必要な資料（学習指導案や観点別学習の評価項目等）の作成を行う。

(2) 学習指導と学習評価に関する実態を実証的に明らかにし、課題解決の方向性を示す。

*沖縄県立総合教育センター指導主事　**沖縄県立総合教育センター主任研究主事　***沖縄県立総合教育センター研究主事
****南部農林高等学校教諭　*****南部工業高等学校教諭　******那覇工業高等学校教諭　*******那覇商業高等学校教諭

２　観点別学習状況の評価の充実（２年目）

(1) 資料「各教科における指導と評価の一体化」の作成

(2) 実践研究による観点別学習状況の評価への取組

Ⅱ　研究内容

学習評価は、教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性を持たせることが重要であり、評価規準は内容や時間のまとまりを見通しながら、「総括的評価」による学習成果の判定（評定）の評価と、「形成的評価」による教師の指導改善及び児童生徒の学習意欲を伸ばす評価の２つの評価を明確にして取り組むことで、「児童生徒の学習改善」や「教師の指導改善」等の学習評価の充実につながる。

評価規準の設定は、各学校が目指す資質・能力に基づき学科や類型が設定した目標を達成するための指導計画とリンクする必要がある。個業的な傾向になりがちな専門教科の評価規準においても、各教科で生徒の現状に即した評価規準を作成し、教師間で実験や実習を含めた科目の評価規準を共有化することで、目標達成に向けた系統的な指導が明確になり、「指導計画等の改善」にもつながる。

教師による学習評価の取組を進めるため「理論研究と実態調査（調査研究１年目）」に基づいた研究成果を活用し、学校現場における学習評価の円滑な実施に向けた資料の作成と観点別学習状況の評価の充実に焦点をあてた実践研究に取り組んだ。

１　資料「各教科における指導と評価の一体化」の作成について

専門学科における指導と評価の一体化について、専門学科の教師への理解を深めるための共通資料「職業教育を主とする専門学科　―共通―」及び、各教科（農業科・工業科・商業科）の教師を対象として各教科・科目の解説を中心とした資料「職業教育を主とする専門学科　―各教科―」を作成した（表１）。

内容は、「令和３年度高等学校教育課程研修会」におけるオンデマンド研修資料としても活用できるように、県立学校教育課　産業教育班の各教科担当主事と協働して作成した。その際に、学習指導要領・学習指導要領解説について協議し、県の学習指導と評価に関する課題について整理し、研修内容として取り組めたことは非常に有意義であった。

表１　資料「各教科における指導と評価の一体化」の項目について

第１章　職業教育を主とする専門学科 ―共通資料―	第２章 職業教育を主とする専門学科　―各教科―
Ⅰ　専門学科における指導と評価の一体化 １　学習評価の充実を目指して ２　工業科の目標と評価の観点及びその趣旨 ３　産業教育の資質・能力を育成する学びの過程 ４　指導と評価のポイント【評価規準と見取り】 ５　観点別学習状況の評価と評定の役割 ６　観点別学習状況の評定への総括 ７　学習指導と評価計画 Ⅱ　参考資料 １　年間指導計画 ２　年間指導評価計画 ３　観点別学習状況の評価の総括	Ⅲ　各教科・科目に関する事例について １　学習評価の基本的な考え（確認用） ２　各教科・科目に関する事例 (1) 授業実践と評価活動 (2) 評価の観点に適した評価方法 (3) 観点別学習状況の評価方法 ３　協議課題の掲示 Ⅳ　協議課題提出用エクセルデータ １　協議課題シート：例題 ２　協議課題シート：協議課題

(1) 資料「職業教育を主とする専門学科　－共通資料－」について

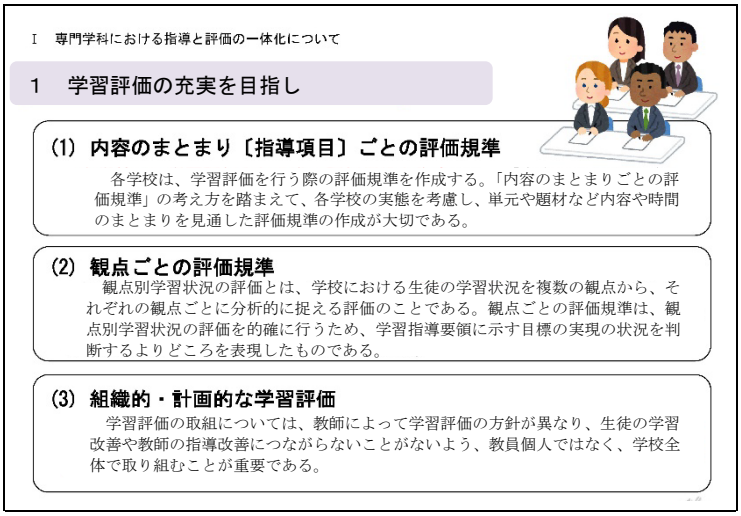
職業教育を主とする専門学科における農業科・工業科・商業科に焦点をあてた説明資料を作成した。資料は、職業教育を主とする専門学科に共通する内容で構成されているため、他の専門学科においても活用が期待できる。

共通資料は、昨年度の調査研究を反映した資料「１　学習評価の充実を目指して」を始め、新学習指導要領の読み取り方、産業教育の資質・能力の育成、観点別学習状況の評価、評価と評定などの職業教育の指導と評価に的を絞った内容とした。また、参考資料として年間指導計画や年間指導評価計画を加えることで、実際の学習活動の指導と評価のつながりについて理解を図った。

① 資料「学習評価の充実を目指して」
教師が学習評価に取り組むにあたり、特に注力してほしい内容を、「まとまり〔指導項目〕ごとの評価規準」「観点ごとの評価規準」「組織的・計画的な学習評価」の３つにまとめ、学習に対する評価の捉え方や観点の在り方、組織的な取組について理解を促した（図１）。

② 資料「指導と評価のポイント」
教師が指導と評価の一体化に取り組むポイントとして、学習目標の「評価規準」と、生徒の学習活動を評価する「見取り」についてまとめている。育成する資質・能力を明確にした評価規準と、学習活動における生徒の具体的な表れを見取ることの重要性について理解を促した（図２）。

③ 資料「学習指導と評価計画」
資料「Ｉ専門学科における指導と評価の一体化（表１）」の各項目を具体的及び効果的な活用を図るため、「Ｉ－７学習指導と評価計画」を作成し理解を促した（図３）。


Ｉ　専門学科における指導と評価の一体化について

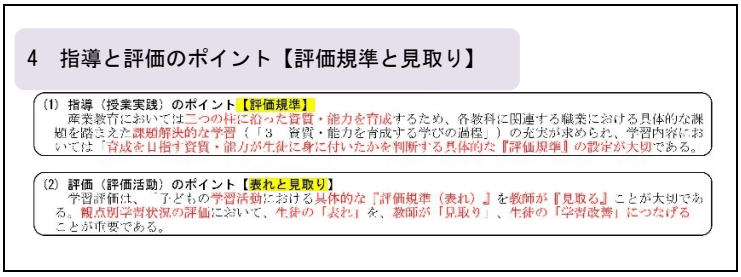
1　学習評価の充実を目指し

(1) 内容のまとまり〔指導項目〕ごとの評価規準
各学校は、学習評価を行う際の評価規準を作成する。「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方を踏まえて、各学校の実態を考慮し、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した評価規準の作成が大切である。

(2) 観点ごとの評価規準
観点別学習状況の評価とは、学校における生徒の学習状況を複数の観点から、それぞれの観点ごとに分析的に捉える評価のことである。観点ごとの評価規準は、観点別学習状況の評価を的確に行うため、学習指導要領に示す目標の実現の状況を判断するよりどころを表現したものである。

(3) 組織的・計画的な学習評価
学習評価の取組については、教師によって学習評価の方針が異なり、生徒の学習改善や教師の指導改善につながらないことがないよう、教員個人ではなく、学校全体で取り組むことが重要である。

図１　Ｉ－１　学習評価の充実を目指して

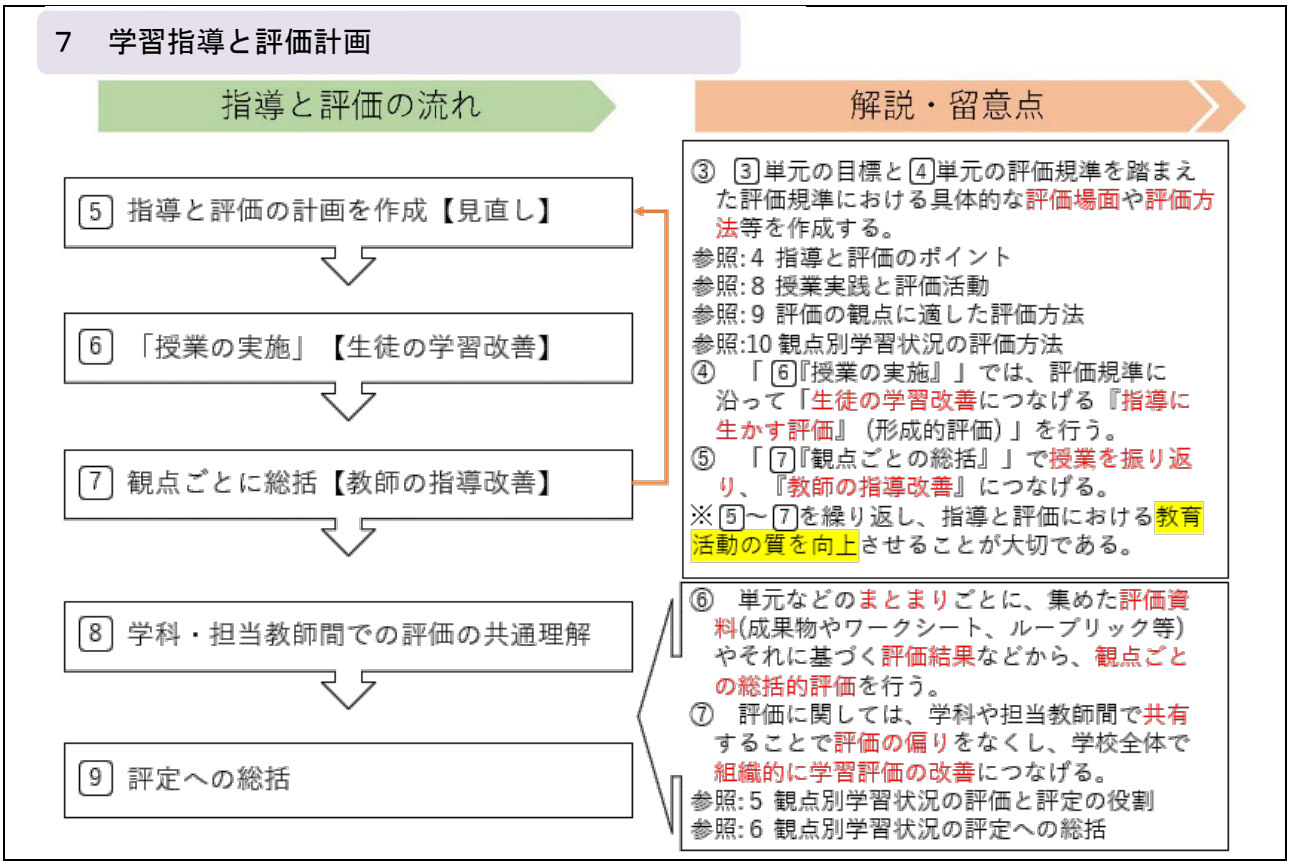

4　指導と評価のポイント【評価規準と見取り】

(1) 指導（授業実践）のポイント【評価規準】
産業教育においては三つの柱に沿った資質・能力を育成するため、各教科に関連する職業における具体的な課題を踏まえた課題解決的な学習（「３　資質・能力を育成する学びの過程」）の充実が求められ、学習内容においては「育成を目指す資質・能力が生徒に身に付いたかを判断する具体的な『評価規準』の設定が大切である。

(2) 評価（評価活動）のポイント【表れと見取り】
学習評価は、子どもの学習活動における具体的な『評価規準（表れ）』を教師が『見取る』ことが大切である。観点別学習状況の評価において、生徒の「表れ」を、教師が「見取り」、生徒の「学習改善」につなげることが重要である。

図２　Ｉ－４　指導と評価のポイント

実際の教師の活動を「指導と評価の流れ（左側）」に、関連する資料（項目）を「解説・留意点（右側）」に示しており、「指導と評価の流れ」に対する具体的な取組や参照する項目、生徒の学習改善や教師の指導改善及び見直しのタイミングなどを「解説・留意点」に示している。


7　学習指導と評価計画

指導と評価の流れ

5 指導と評価の計画を作成【見直し】

6 「授業の実施」【生徒の学習改善】

7 観点ごとに総括【教師の指導改善】

8 学科・担当教師間での評価の共通理解

9 評定への総括

解説・留意点

③ 3単元の目標と4単元の評価規準を踏まえた評価規準における具体的な評価場面や評価方法等を作成する。
参照:4 指導と評価のポイント
参照:8 授業実践と評価活動
参照:9 評価の観点に適した評価方法
参照:10 観点別学習状況の評価方法
④ 「6『授業の実施』」では、評価規準に沿って「生徒の学習改善につなげる『指導に生かす評価』（形成的評価）」を行う。
⑤ 「7『観点ごとの総括』」で授業を振り返り、『教師の指導改善』につなげる。
※5～7を繰り返し、指導と評価における教育活動の質を向上させることが大切である。

⑥ 単元などのまとまりごとに、集めた評価資料(成果物やワークシート、ルーブリック等)やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的評価を行う。
⑦ 評価に関しては、学科や担当教師間で共有することで評価の偏りをなくし、学校全体で組織的に学習評価の改善につなげる。
参照:5 観点別学習状況の評価と評定の役割
参照:6 観点別学習状況の評定への総括

図３　Ｉ－７　学習指導と評価計画

(2) 資料「職業教育を主とする専門学科　－各教科－」について

職業教育を主とする専門学科のうち、農業・工業・商業の各専門学科の教師を対象とした「各教科・科目に関する事例」として、学習評価の基本的な考え方や事例を作成して学習評価の理解を促すとともに、具体的に学習評価を作成する協議課題を設定した。

各専門学科における学習評価の基本的な捉え方から、学習指導要領・学習指導要領解説を踏まえた、学習指導計画及び指導方法と評価方法について、具体的な事例を用いた内容となっている。

① 資料「授業実践と評価活動」

共通資料の内容を踏まえ、「①学習評価の進め方」において実際の進め方を６工程で示し、学習評価の具体的な理解を促した（図４）。

各工程の内容は「①指導項目ごとの評価規準」「②単元（題材）の目標を作成」「③単元（題材）の評価規準の作成」「④指導と評価の計画」「⑤授業（指導と評価）」「⑥観点ごとの総括」とし、教師の行う学習評価の手順を明確にした。

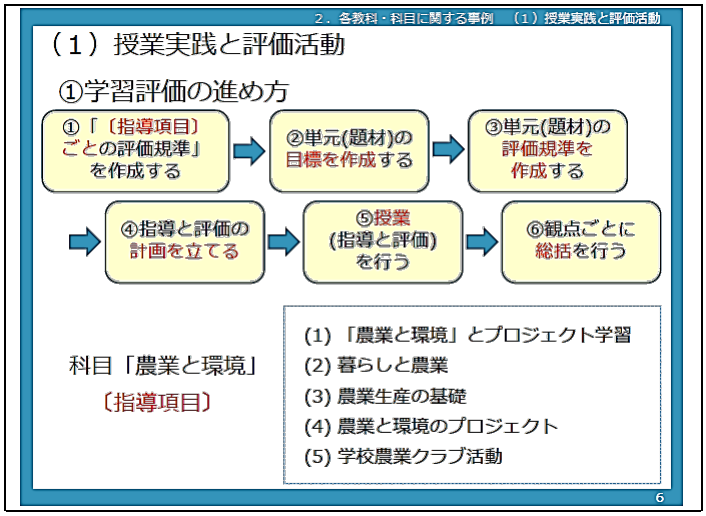


図４　「Ⅲ２(1)授業実践と評価活動」（農業）

② 資料「評価の観点に適した評価方法」

各専門学科の科目をもとに、単元の指導計画と評価資料・評価方法について「④指導と評価の計画を立てる」としてまとめた（図５）。

例（単元の指導計画）では、評価の観点のバランスが偏らない工夫をしている。評価方法は「形成的評価」及び「総括的評価」を例に挙げ、評価活動による教師の指導改善や生徒の学習意欲の向上につなげることを示した。

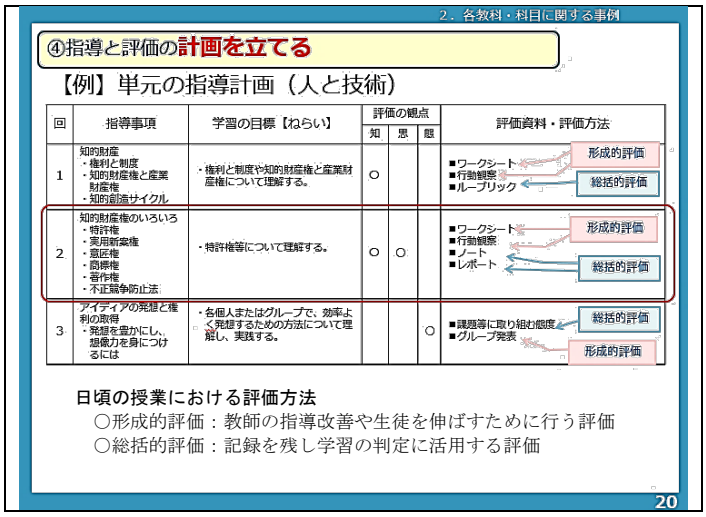


図５　「Ⅲ２(2)④ 指導と評価の計画」（工業）

③ 資料「観点別学習状況の評価方法」

学習指導案における本時の評価規準を例として、「⑤授業（指導と評価）を行う」において、評価の観点における評価規準について理解を促した（図６）。

資料は、評価の事例として単元指導計画の評価の観点「知識・技術」について、具体的な評価規準とそれを見取る評価（方法）について示している。項目「評価規準・学習内容」で生徒に身に付けさせたい学習内容を、項目「評価方法・評定」で具体的な見取り方を示すことで、学習活動に準拠した評価（総括的評価・形成的評価）について理解を促している。

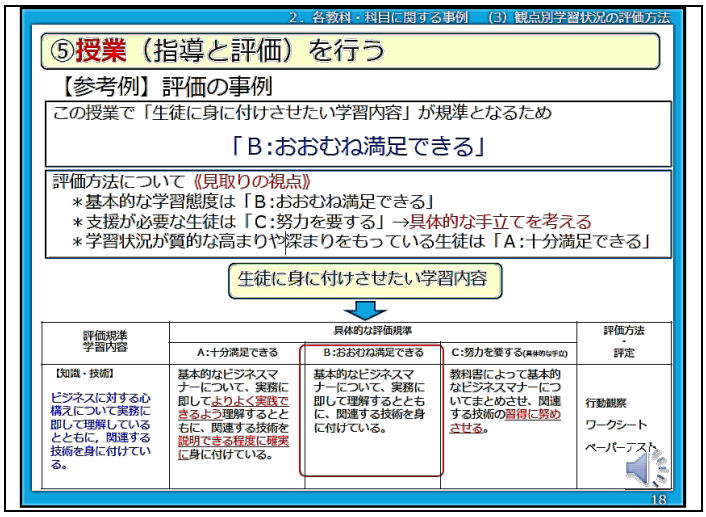


図６　「Ⅲ２(3)⑤ 授業（指導と評価）」（商業）

④ 協議課題について

協議課題は、全教師が課題に取り組むこと及び次年度から観点別学習状況の指導と評価が実施されることを踏まえて、各教科の主要科目を設定した（表２）。

協議課題の項目は、農業・工業・商業で共通とし、教育課程研修の資料を踏まえて設定している。内容は、資料の活用と各学科における教科・科目の指導と評価の理解を深める取組とした。

表２　教育課程研修会協議課題（農業・工業・商業）

項　目	内　容		
	農　　業	工　　業	商業
協議課題	学習評価の進め方の①～④に沿った「単元計画・評価計画」の作成		
課題単元	①　指定 科目「農業と環境」の〔指導項目〕（２）暮らしと農業 ②　自由 １学年で履修する科目	１学年で履修する科目	科目「ビジネス基礎」の〔指導項目〕（５）企業活動
作成内容 ・ 留意点	・学科の特性を生かした単元設定 ・学科で協働して取り組み、学科ごとで２つの単元計画を作成 ・次年度に実践できる内容 ・提出様式を参照して作成	・学科の特性を生かした単元設定 ・学科で協働して取り組み、学科ごとで単元計画を作成 ・次年度に実践できる内容 ・提出様式を参照して作成	・教科内で協議して取り組む ・次年度に実践できる内容 ・提出様式を参照して作成

２　実践研究による観点別学習状況の評価への取組みについて

(1) 研究協力員の依頼

研究協力員は、各専門高校の地域性や学科の特色を考慮するとともに、教育課程に関する知識も豊富な中堅教諭へ依頼した（表３）。

(2) 科目の決定

科目は、各学科の原則履修科目、学校・学科の特色である学校設定科目、新学習指導要領で新設された科目、学習の評価が複雑な実験・実技を伴う科目など多面的・多角的な面から検討し、学校長を始め、学科主任と研究協力員及び担当主事を含めた話し合いにより決定した（表３）。

表３　研究授業における研究協力員と科目及び担当主事について

学科	学校名	学科名	科目	授業形態	研究協力員	担当主事
農業	南部農林高校	生物資源科	農業と環境	実技(座学)	徳　永　公　男	兼　次　あかね
		食料生産科	生産加工 (学校設定科目)	実技(座学)	安座間　　健	上　唐　由紀子
工業	南部工業高校	機　械　科	機械工作	座学	長　濱　隆　史	塩　浜　　浄
	那覇工業高校	電　気　科	実習（電気）	実技	具志堅　良　彦	佐久本　　厚
商業	那覇商業高校	国際経済科	ビジネス基礎	座学	小　原　満　春 安座名　清　子	新　垣　安　之

(3) 学習評価に関する資料について

研究授業に向けて、資料「各教科における指導と評価の一体化」を踏まえた「学習指導案」と「単元指導評価計画」について作成要領をまとめ、研究協力員へ内容の理解と資料作成を依頼した。

①　学習指導案の作成

ア　学習指導案作成の留意点

・単元計画と本時の目標の整合性を図る

・「学習指導（評価規準)」と「生徒の評価（見取り)」を中心に取り組む

イ　観点別学習状況の評価

・評価の観点「思考力・判断力・表現力等」（昨年度の共同研究課題）の評価を中心に取り組む

（※観点「思考力・判断力・表現力等」は評価への明確な基準を持てていない）

ウ　指導計画及び評価計画の留意点

・科目及び指導項目の目標を達成する取組となっているか。

・内容のまとまり（指導項目）ごとの評価計画及び評価規準になっているか

エ　その他

・観点ごとの評価規準はバランスよく計画されているか

・評価の観点は、学科で共有（組織的な取組）されているか

② 年間指導計画の作成

県立学校教育課産業教育班と連携し、新学習指導要領に沿った年間指導計画の基本フォームを完成させ、実践研究で実施した科目での作成を依頼した。

年間指導計画は、科目の標準単位数と内容に関わる項目、科目の目標・評価の観点の学習指導の取組などが理解しやすい工夫を行った。

ア 特記事項の追加

・標準単位数を下回る場合の理由等を記載することで、補っている学習項目を把握

イ 科目目標、評価の観点の追加

・科目の目標や資質・能力の３観点の趣旨の理解を図る

ウ 指導項目、指導内容（教科書）、評価の観点、評価規準・評価方法、振り返りの追加

・学習指導要領解説と教科書の内容及び３観点の評価規準と評価方法を記載することで、指導内容と評価を明確にさせるとともに、振り返りによるＰＤＣＡサイクルの実施を促す

(4) 実践研究に向けて

実践研究に向け、班内の共通理解を図るため、研究授業で使用する各学科の学習指導案と授業研究で活用するアンケート等について意見交換を行った。

① 研究授業に向けた指導と評価の共通理解（学習指導案）

各学科における指導と評価の取組みの共通理解を図るため、学習指導案の次の３項目（アイウ）を中心に、本時の目標の達成を目指した授業計画になっているか、観点の育成に適した指導と評価になっているかについて協議を行った。

ア 科目・単元目標

イ 単元の評価計画（※３観点のバランス）

ウ 本時の目標を達成する指導と評価

② 授業研究会の実施と内容（研究授業の振返り）

研究協力員と担当主事を中心に、研究授業について次の４項目を中心に、良い点や改善点、課題などについて振り返りを行い、今後の観点別学習状況の評価について検討する。

ア 観点別（思考・判断・表現）に沿った学習指導について

イ 評価について

ウ 授業展開について

エ アンケートより

③ アンケートによる研究授業の実証（分析）

研究授業に参加した研究協力員、教諭、生徒、担当主事からのアンケートを分析し、授業内容を客観的な面から実証的に明らかにする（表４）。

ア 評価方法：４段階評価

イ アンケート項目（－：質問なし）

表４ アンケート項目

No	質問項目	教師	生徒	主事
1	学習指導案について （評価規準、指導と評価計画、本時の展開）	質問数３	－	質問数３
2	授業について （学習目標、評価方法・評価資料、まとめ）	質問数４	質問数５	質問数４
3	生徒について （学習目的の理解、学習活動、変容の場面）	質問数４	質問数４	質問数４
4	全体的な質問 （感想・意見、良い点、悪い点、改善、課題）	質問数５	質問数２	質問数５
5	教師の指導改善	－	－	質問数１
6	生徒の学習意欲の向上	－	－	質問数１

３ 各教科・科目における実践研究について

各教科における実践研究について、実施科目の「①基本情報、②学習指導の取組、③アンケート結果（生徒用）」を中心に分析を行った。

また、実践研究の取組を指導と評価の一体化へつなげるため「生徒の学習意欲の向上につなぐ」と「教師の指導改善につなぐ」の視点から、「つなぐポイント」として９つの項目で分類した（表５）。

表５　つなぐ９つのポイント

○生徒の学習意欲の向上
つなぐＡ　多面的（記述、口頭、図表など）な見取りの工夫
つなぐＢ　判断基準を踏まえた評価のポイント（ワークシートなど）
つなぐＣ　生徒との目標（評価規準）共有（ワークシート、ルーブリックなど）
つなぐＤ　学んだことを関連させ、考え、深める問いの工夫
つなぐＥ　計画的（継続的・段階的）な生徒の変容（学習意欲の高まりや取組）
○教師の指導改善
つなぐＦ　タイムマネジメントにより「まとめ」「振り返り」を行う「完結型」の授業
つなぐＧ　各観点がつながる学習指導による効果的な学習活動
つなぐＨ　個別学習から協働学習につなげる主体的・対話的で深い学び
つなぐＩ　教員間の評価の共有（ワークシート、ルーブリックなど）

(1) 農業科

①　基本情報

項目	実践①	実践②
科　目	農業と環境	生産加工（学校設定科目）
単　元	作物をとりまく環境とその管理	食材を活用したｵﾘｼﾞﾅﾙｼﾞｬﾑの開発
本時の目的 （観点）	○思考・判断・表現 ○主体的に学習に取り組む態度	○思考・判断・表現 ○主体的に学習に取り組む態度
授業形態	実技(座学)	実技(座学)

②　学習指導の取組（主な内容のみ）

項目	◇良い点	◆課　題
思考･判断･表現の学習指導	実践①実験結果をまとめ、グループで考察させ、ワークシートにまとめた内容での見取りができた。 ◇**つなぐＡ** 実践②実際に素材を使用することで、既習事項の知識・技術を踏まえた思考力を導き、判断させる学習活動は有効であった。 ◇**つなぐＤ**	実践①思考の場面をどのように見取るのか、その手段と授業を実践しながら、それが実際に可能なのか非常に難しい。 ◆**つなぐＥ** 実践②「思考」に関する記述内容を評価する場合、評価項目が複数含まれると採点に時間を多く要するため、継続が難しい。 ◆**つなぐＥ**
評　　価	実践①ワークシートなどの書く活動（言語活動）は、生徒一人一人の思考（評価）が読み取りやすい。 ◇**つなぐＡ** 実践②教材（ワークシートや実習記録簿）の役割（学習活動）を明確（分ける）にすることにより、観点の評価（見取り）が実施しやすい。 ◇**つなぐＡ**	実践①明確な判断基準と丁寧な見取りが必要である。 ◆**つなぐＢ** 実践②生徒へ評価規準を示すことで、生徒の学習活動を促進が期待できる（ただし、教材の精選が必須）。 ◆**つなぐＣ**
授業展開	実践①生徒への連続的な問いにより思考を深めていた。 ◇**つなぐＤ** 実践②グループでの意見交換は活発に行えており、既習知識の活用も見られる。 ◇**つなぐＡ**	実践①授業の初めに評価規準を生徒と共有する。 ◆**つなぐＣ** 実践②学習内容が多く、話し合いや考える時間があっても、書く時間がなかった。 ◆**つなぐＢ**

③　アンケート結果（生徒用のみ）

生徒は、㋐本時の授業で身に付いた力（３観点）においては、主体的に学習に取り組む態度(50.0%)の割合が一番高く、㋑理解度（66.7%）、㋒満足度（59.3%）も５割を超えている。

質　問 （生徒 58 名=取組①39 名＋取組②19 名）		A：思う		B：やや思う		C：あまり思わない		D：思わない	
		数	%	数	%	数	%	数	%
㋐　今日の授業を受けて、次の３つの力（３観点）はどの程度身に付きましたか？									
	・知識・技術	20	37.0	32	59.3	2	3.7	0	0.0
本時	○思考力・判断力・表現力等	22	40.7	29	53.7	3	5.6	0	0.0
本時	○主体的に学習に取り組む態度	27	50.0	23	42.6	4	7.4	0	0.0
㋑　授業は理解しやすかったか		36	66.7	17	31.4	1	1.9	0	0.0
㋒　学習活動は、満足できたか		32	59.3	20	37.0	2	3.7	0	0.0

④　観点別学習状況の評価の取組について

農業科の座学を含む実技の学習において、ワークシート等を活用した「思考・判断・表現を促す学習」と協働的なグループ活動による「主体的な学習への取組み」は、「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」の観点の学習において効果的であることが分かった。

(2)　工業科

①　基本情報

項目	実践③	実践④
科　目	機械工作	実習（電気科）
単元（項目）	各種の工作法	シーケンス制御
本時の目的 （観点）	○知識・技術 ○思考・判断・表現	○知識・技術 ○思考・判断・表現
授業形態	座学	実技

②　学習指導の取組（主な内容のみ）

項目	◇良い点	◆課　題
思考･判断･表現の学習指導	実践③「思考･判断･表現」の育成を促すため、課題を「金型のメリット・デメリット」とし、学習活動を明確にした。 ◇つなぐＢ 実践④導入でルーブリックを生徒に示すことで、評価を意識した授業ができた。 ◇つなぐＣ	実践③生徒に思考・判断させ、表現させるまでの問いかけ、ヒントの与え方の工夫が必要である。 ◆つなぐＤ 実践④ワークシート内の「教師の確認」の項目が少し足りなかった。 ◆つなぐＢ
評　　価	実践③ワークシートにより、生徒の学習目的（観点）の達成に向け、学習活動を導くことができた。 ◇つなぐＤ 実践④実技課題は、その場における指導（形成的評価）による生徒の学習活動の支援が効果的だった。 ◇つなぐＤ	実践③発問やワークシートの問いに対して、教師が待ちきれず（時間の関係上）、答えてしまった。 ◆つなぐＦ 実践④ワークシートの評価規準の「思考・判断・表現」が、「思考」と「判断」と「表現」の見取りが明確になっていない。 ◆つなぐＧ
授業展開	実践③いつもよりワークシートの内容について考えることができた。 ◇つなぐＤ 実践④授業展開を、知識・技術の指導と、思考・判断・表現の時間と分けることにより、学習活動が明確になった。 ◇つなぐＥ	実践③ワークシートは項目が多く、思考を深める時間が少なかった。 ◆つなぐＢ 実践④タイムマネジメントを意識した授業計画が必要である。 ◆つなぐＦ

③　アンケート結果（生徒用のみ）

生徒は、㋐本時の授業で身に付いた力（３観点）においては、知識・技術と主体的に学習に取り組む態度（50.0%）の割合が高く、本時の目標である思考・判断・表現の割合は低いが、㋑理解度（67.9%）、㋒満足度（53.6%）の割合は５割を超えている。

質　問 （生徒 28 名=取組①22 名＋取組②6 名）		A:思う		B:やや思う		C:あまり思わない		D:思わない	
		数	%	数	%	数	%	数	%
㋐　今日の授業を受けて、次の３つの力（３観点）はどの程度身に付きましたか？									
本時	○知識・技術	14	50.0	11	39.3	3	10.7	0	0.0
本時	○思考力・判断力・表現力等	11	39.3	11	39.3	4	14.3	2	7.1
	・主体的に学習に取り組む態度	14	50.0	11	39.3	3	10.7	0	0.0
㋑　授業は理解しやすかったか		19	67.9	8	28.5	1	3.6	0	0.0
㋒　学習活動は、満足できたか		15	53.6	9	32.1	3	10.7	1	3.6

④　観点別学習状況の評価の取組について

工業科の座学と実技の学習では、ワークシートや実技による「知識・技術」の習得における「思考・判断・表現」の学習活動を「主体的な学習」として捉えていることが分かる。このことから、生徒の「思考・判断・表現」の学習活動から「主体的な学習」を見取る評価（学習活動）が効果的であることが推測される。

(3) 商業科

①　基本情報

項目	実践⑤
科　目	ビジネス基礎
単　元	大項目「第５章　企業活動」　小項目「ウ　資金調達」
本時の目的（観点）	○思考・判断・表現
授業形態	座学

②　学習指導の取組み（主な内容のみ）

項目	◇良い点	◆課　題
思考･判断･表現の学習指導	○資金調達の方法、種類について調べ学習→グループでの話し合い・考えをまとめる→発表→質疑応答の一連の取組による見取りが良かった。 ◇つなぐＡ ○発表質問後、教師からの更なる問いかけで更に思考が深まる。 ◇つなぐＤ	○グループワークの際、担当を決めて、話し合いやまとめの流れを把握することで評価につなげる。 ◆つなぐＢ
評　　価	○発表用教師用評価シートの作成（ルーブリック評価）。 ◇つなぐＣ ○導入時に本時の評価規準を生徒に示し確認したこと。 ◇つなぐＣ	○複数担当者との評価規準のすり合わせ。 ◆つなぐＩ ○行動観察による見取り方法の検討。 ◆つなぐＡ ◆つなぐＢ
授業展開	○思考ツール（教材）を活用し、思考・判断・表現を促す効果的な学習活動。 ◇つなぐＡ	○振り返り、まとめの時間の確保（タイムマネジメント）。 ◆つなぐＦ

③　アンケート結果（生徒用のみ）

生徒は、㋐本時の授業で身に付いた力（３観点）においては、知識・技術（78.9%）の割合が一番高く、次に思考・判断・表現（63.2%）、主体的に学習に取り組む態度（57.9%）の順で割合が高く、㋑理解度（84.2%）、㋒満足度（68.5%）の割合も６割を超えている。

質　問 （生徒 38 名）		A:思う		B:やや思う		C:あまり思わない		D:思わない	
		数	%	数	%	数	%	数	%
㋐　今日の授業を受けて、次の３つの力（３観点）はどの程度身に付きましたか？									
	・知識・技術	30	78.9	8	21.1	0	0.0	0	0.0
本時	○思考力・判断力・表現力等	24	63.2	14	36.8	0	0.0	0	0.0
	・主体的に学習に取り組む態度	22	57.9	14	36.8	2	5.3	0	0.0
㋑　授業は理解しやすかったか		32	84.2	4	10.5	2	5.3	0	0.0
㋒　学習活動は、満足できたか		26	68.5	11	28.9	1	2.6	0	0.0

④　観点別学習状況の評価の取組について

商業科の座学において、ワークシートなどの教材やグループ活動・発表を「思考・判断・表現」と関連させた授業展開は、「知識・技術」や「思考・判断・表現」の観点の学習に効果的であるだけでなく、「主体的な学習」につながることも推測される。

(4) 指導と評価へつなげる実践研究のまとめ（研究協力員とセンター主事の振り返りより）

実践研究で取り組んだ５科目の「(3) ②学習指導の取組み（学習指導、評価、授業展開）」を、「つなぐ９つのポイント（表５）」で整理し、指導と評価へつなげる分析を行った。

①　観点別【思考・判断・表現】の学習指導について「良い点」と「課題」を分類した（表６、７）

良い点の「つなぐ」（表６）

表６　良い点の「つなぐ」

各教科	授業形態	つなぐ（生徒の学習意欲の向上）					つなぐ（教師の指導改善）			
		A	B	C	D	E	F	G	H	I
農業①	実＋座	1				1				
農業②	実＋座	2	2		1					
工業①	座学	1	1		1			1		
工業②	実技	2		1	1	1				
商　業	座学	2			1	1				
合計	－	8	3	1	4	3	0	1	0	0

課題の「つなぐ」（表７）

表７　課題の「つなぐ」

各教科	授業形態	つなぐ（生徒の学習意欲の向上）					つなぐ（教師の指導改善）			
		A	B	C	D	E	F	G	H	I
農業①	実＋座			1		1				
農業②	実＋座		1			2				
工業①	座学				1	1				
工業②	実技		1	1						
商　業	座学		1							
合計	－	0	3	2	1	4	0	0	0	0

考察

観点別評価（思考・判断・表現）の学習指導において、ア良い点では「つなぐＡ　多面的（記述、口頭、図表など）な見取りの工夫」の合計が一番高いことから、各教科（農業・工業・商業）の学習指導は十分取り組めていることが分かった。しかし、イ課題では「つなぐＥ　計画的（継続的・段階的）な生徒の変容（学習意欲の高まりや取組）」の数値が高いことから、観点別「思考・判断・表現の継続的な指導とその見取り」が課題であることが浮かび上がった。

②　評価について「良い点」と「課題」を分類した（表８、９）

良い点の「つなぐ」（表８）

表８　良い点の「つなぐ」

各教科	授業形態	つなぐ（生徒の学習意欲の向上）					つなぐ（教師の指導改善）			
		A	B	C	D	E	F	G	H	I
農業①	実＋座	1								
農業②	実＋座		1							1
工業①	座学		1		1					
工業②	実技		1		1					
商　業	座学			1						
合計	－	1	3	1	2	0	0	0	0	1

課題の「つなぐ」（表９）

表９　課題の「つなぐ」

各教科	授業形態	つなぐ（生徒の学習意欲の向上）					つなぐ（教師の指導改善）			
		A	B	C	D	E	F	G	H	I
農業①	実＋座		1							
農業②	実＋座			1						
工業①	座学					1		1	1	
工業②	実技		1					1	1	

商　業	座学	1	1							1
合計	－	1	3	1	0	1	0	2	2	1

考察

学習指導の評価について、ア良い点では、「つなぐＢ　判断基準を踏まえた評価のポイント（ワークシートなど）」の数値が高い（特に実技）ことから、「ワークシートやルーブリックなどを活用した評価」がよい効果があることが分かる。しかし、「つなぐＢ」はイ課題においても高い数値を示していることから、ワークシートやルーブリックを活用した「判断基準を踏まえた評価のポイント（焦点化・明確化）」については課題であることが浮かび上がった。

③　授業展開について（表 10）

表 10　授業展開について

各教科	授業形態	つなぐ（生徒の学習意欲の向上）					つなぐ（教師の指導改善）			
		A	B	C	D	E	F	G	H	I
農業①	座学				1	1				
農業②	実技	1	1				1	2		
工業①	座学		1		1		1			
工業②	実技					1	1			
商　業	座学				1		1			
合計	－	1	2	0	3	2	4	2	0	0

考察

研究授業おける「質問７　授業展開について」では、教師の指導改善「つなぐＦ　タイムマネジメントにより『まとめ・振り返り』を行う『完結型』の授業」の数値が高いことから、授業におけるタイムマネジメントがうまくいっていないことが浮かび上がった。

４　実践研究における指導と評価の一体化について

(1)　「多面的な見取り」による学習指導（**つなぐＡ**）

観点（思考・判断・表現）の学習指導については、「多面的な見取りによる指導」が効果的である。評価規準を「思考」「判断」「表現」の３つに分けた多面的な指導、言語活動における思考を促す発問や表現を深める問いの工夫、ワークシートや発表のパフォーマンス評価など多面的に見取ることが有効である。

注意点として、「具体的な評価規準（ＡＢＣ）」を設定すること、見取る評価のポイント（判断基準）を明確にして、生徒の「段階的・継続的な学習活動」を行うことが大切である。

(2)　「判断基準」を踏まえた評価（**つなぐＢ**）

観点（思考・判断・表現）の評価については、ワークシートやルーブリック、既習事項を学んだ上でのパフォーマンス課題の掲示などによる評価の判断の目安を明確にした「判断基準を踏まえた評価のポイント」が重要である。また、知識・技術を含めた思考・判断・表現の学習活動（レポート、ペア・グループ活動、実験・実習など）ではパフォーマンス課題が適しており、生徒の活動評価が行いやすい。

注意点として、判断基準の曖昧さや具体性に欠けていると評価そのものの整合性がなくなり、授業の学習活動が本時の目標からズレた活動になりやすい。

(3)　「目標を共有する」授業（**つなぐＣ**）

観点（思考・判断・表現）の授業展開は、生徒の学習活動が多くなりがちであり評価項目も増える傾向にある。授業で「生徒と目標や評価規準を共有」することで、教師の指導（活動）の意図が生徒に伝わり、生徒の自主性と行動が促されることから指導時間が圧縮されて、結果的に時間のゆとりが生まれる。教師の指導と生徒の活動を「目標を共有」することで一体化させ、タイムマネジメントによる「まとめ・振り返り」を実施する「完結型」の授業を目指すことが大切である。

(4)　「関連させ・考え・深める」問の工夫（**つなぐＤ**）

観点（思考・判断・表現）の効果を高めるには、生徒への「問い」により学びや観点等を意図的につなげることが効果的である。問いは「既習事項とつなげる・考えさせる・発言を深める」など、「学習活動をつなぎ」「学習目標に導く」重要なエッセンスである。

(5)　「生徒の変容」への取組（**つなぐＥ**）

観点（思考・判断・表現）の教育活動は、思考を判断や表現に継続的・段階的につなげる（考えさせる）ことが重要である。生徒の思考を促すため、既習事項と関連付けて考える、資料を比較し

て考えるなどの活動が効果的であり、考えた結果を「判断」や「表現」で見取ることが大切である。

(6) 「観点をつなぐ」学習指導（主体的・対話的で深い学び）

資質・能力の３観点は互いに関連しており、複数の観点をつなげた授業展開は、互いの教育効果を高めやすい。例えば、習得した知識・技術が思考・判断・表現において活用することで生きた知識・技術となり、思考・判断・表現の中で新たな知識・技術が更新される。このように各観点を結びつける教育活動は「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニングの視点)」が効果的である。個人・ペア・グループ活動などの協働学習、学習から発表までのパフォーマンス課題などは、各観点を関連させる活動として効果的である。

Ⅲ まとめ

１ 成果

県立学校教育課と県立総合教育センターの産業教育班の共同により、資料「各教科における指導と評価の一体化」を新学習指導要領の趣旨を踏まえ作成し、教職員研修等で活用することができた。

授業研究によって、観点別学習状況の評価における成果（効果)、課題、改善点などを明確にすることができ、職業に関する教科における観点別学習状況の評価の充実を図ることができた。成果としてパフォーマンス課題やルーブリックなどによる効果的な評価、課題として観点に沿った学習指導と学習活動、改善点として科目目標に準拠した評価規準・基準の設定を示すことができた。

２ 課題

学校における評価活動が円滑に行われ、生徒の資質・能力の育成が継続的・段階的に行うために、教職員が年間指導計画や単元計画を見通して、計画的に評価に取り組む必要がある。各観点を評価しやすい単元や時期、評定に結びつける機会を明確にした評価計画を立てるなど、具体的な取り組みが望まれる。

観点別学習状況の評価を指導と評価の一体化につなげるには、ルーブリックやパフォーマンス評価、ポートフォリオなどの活用が効果的であり、学校での活用が期待されるため、今後も継続した指導と評価の支援が必要である。

＜参考文献＞

国立教育政策研究所　2021　「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（高等学校編）「専門教科」」
沖縄県立総合教育センター　2021　調査研究「職業に関する教科における学習評価の実践研究」（産業教育班共同研究）
ベネッセ教育総合研究所　2021　「VIEW next 高校版 2021 年度」
東京都教育委員会　2020　「指導と評価の一体化を目指して」
沖縄県教育庁八重山教育事務所　2019　「新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価」
国立教育政策研究所　2019　「学習評価の在り方ハンドブック　高等学校編」
文部科学省　2019　「児童生徒の学習評価の在り方について（報告)」
文部科学省　2018　『高等学校学習指導要領』
文部科学省　2018　『高等学校学習指導要領解説』
文部科学省　2016　「教育課程部会　産業教育ワーキンググループにおける審議の取りまとめについて（報告)」
中央教育審議会 2016「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」

＜参考 WEB サイト＞

文部科学省　2019　「小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録等の改善等について（通知)」(最終閲覧 2020 年７月)
https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/1415169.htm
中央教育審議会　2018　「教育課程部会　児童生徒の学習評価に関するワーキンググループ」(最終閲覧 2020 年 12 月)
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/080/giji_list/index.htm
文部科学省　2010　「児童生徒の学習評価の在り方について（報告)」(最終閲覧 2020 年８月)
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/attach/1292216.htm